

2. 事業の目的と概要	
(1) 上位目標	ビントゥアン省全域の小学校、アンザン省全域の小学校でインクルーシブ教育研修システムが構築され、他省のモデルとなっている。ビントゥアン省、アンザン省の障害ある児童の就学率が増加する。
(2) 事業の必要性（背景）	<u>1. 事業のニーズ</u> 【ベトナムにおける障害ある児童の状況】 現在ベトナムの障害ある児童の就学率は全体で 40%程度とみなされる。ベトナムの障害ある児童 80 万人のうち、46 万人は初等教育さえ受けられていないのが現状である。¹ ベトナムにおいて特別学校は各省に 1 校しかなく、田舎に住む障害ある児童が町の特別学校に通うというのは不可能に近い。² さらに、どこの特別学校も、受け入れには限度があり、毎年 200 人以上の入学を断っているという事情もある。 【ベトナム政府の国の教育計画】 ベトナム政府は 5 年に 1 度、国の教育計画を発表する。最新の情報によると、政府は 4 つの教育に力を入れる指針を打ち出した。³ 1. 障害ある児童の教育、2. 少数民族の教育、3. 貧困の児童やホームレスの児童の教育、4. 女児教育である。 【ベトナムの障害ある児童に対する教育方針】 国の教育計画と同時に打ち出された政府の障害ある児童の教育指針は、「障害ある児童が近隣の学校に通えるように、学校でのインクルーシブ教育の運営方法の向上」、「障害ある児童が学校に通える環境作り」、「地域の人々のインクルーシブ教育の理解の促進」、「教師や補助教員、教育室や教育局の職員へのインクルーシブ教育研修、個別教育の推進」、「研修、カリキュラム、早期教育、インクルーシブ教育の刷新。」である。 【ベトナムでインクルーシブ教育を推進する妥当性と事業の目的】 インクルーシブ教育は、ベトナムの政府の方針、特別学校の数が少ない現状、世界的な障害ある児童に対する教育の潮流から、非常に妥当な事業である。当事業は、公立小学校の教師にインクルーシブ教育研修を実施し、教師が障害ある児童を受け入れ、より多くの児童が初等教育を受けられることを目的としている。 また、当事業は外務省の「対ベトナム社会主義共和国国別開発協力方針」のうち、該当する重点分野（当方注：「脆弱性への対応」における社会的弱者支援の分野支援）に沿った事業である。 ベトナムの教育省 2015 年度のデータ ² 現在日本では特別学校は特別支援学校に変わっている。ベトナムでも、特別学校が特別支援学校に変わる事が閣議決定しているが、大都市以外はまだ特別学校のみである。 ³ 教育省長官 Le Tien Thanh 氏による声明 2011 年 10 月 ハノイの SEAMOEL の会議にて。2011 年度の声明が最新

2. 事業地選定理由

＜2016 年 3 月の資料：各省教育局より入手＞

省名	地区 数	小学校の学齢期 の障害ある児童 の数	小学校へ通ってい る障害ある児童の 数	特別学校へ通っ ている障害ある 児童の数	小学校の学齢 期の少数民族 の数
アンザン省	11	1061	392	7	4261
ビントゥアン 省	10	936	766	0	10224
合計	21	1997	1158	7	14485

省名	地区 の数	インクルーシ ブ教育を実施 している小学 校数	インクルーシ ブ教育を実施 しているクラ ス数	障害ある児童 を受け入れて いる小学校の 教師の数	障害ある児童を受け入 れている教師の中で、 インクルーシブ教育研 修を受けた教師の数
アンザン省	11	68	189	184	31
ビントゥアン 省	10	174	646	646	92
合計	21	242	835	830	123

A. ビントゥアン省

ビントゥアン省には、127 のコミューンがあり、17 のコミューンが高地に、62 のコミューンが山岳地帯に、3 のコミューンが島にある。また、26 の少数民族がいて、人口全体の 6.9%になる。

省内の 6 歳から 14 歳までの学齢期にある児童は 53,882 人で、936 人が障害をもっている。この内、766 人の児童が近隣の小学校に通っている。

現在の問題は、省内の障害ある児童を受け入れている小学校の教員 646 人中、インクルーシブ教育研修を受けた教師は 92 だけで、554 人の教員はなんの研修も受けていないので、教員はクラス現場で非常に混乱している事である。

現場教師の問題意識は、①障害ある児童に何度教えても上達しない。②他の児童への授業準備だけでも忙しいのに、障害ある児童のレベルに合わせた勉強の準備までできない。③障害ある児童は授業中大声を出す。④障害ある児童は授業中クラスを走り回る。⑤障害ある児童は、暴力をふるう。⑥障害ある児童の特性がわからない。⑥障害ある児童の試験や進級がわからない。

このような問題を解決するために、教師に対して研修を実施し、教師のインクルーシブ教育のスキルを高める必要がある。また、170 名の現在小学校へ行けていない障害ある児童も近隣の小学校へ行くことができるようにする。

	<u>B. アンザン省</u> アンザン省は、カンボジアと接した位置にあり、多くのクメール人が居住している省である。主だった産業もなく、カントーのような観光地でもないの、ベトナムの貧困地域の1つとみなされている省でもある。 6歳から14歳までの障害ある児童の人数はおよそ1,061名で、現在、障害ある児童の中で、初等教育を受けている人数は、特別学校7名、インクルーシブ小学校392名 合計399名、初等教育を受けている児童はおよそ37%のという状況である。 現在およそ662名の障害ある児童が、特殊学校にも近隣の小学校にも通えないで、学習する機会もなく、ただ家にいるだけで何もせずに過ごしているという状況である。 また、184人のインクルーシブクラスの教員のほとんどは研修をうけていない状況である。アンザン省にある聴覚障害児学校と視覚障害児学校に、教員が行って学んだだけである。アンザン省の障害ある児童の内、8割以上が知的に障害ある児童であるので、知的に障害ある児童を受け入れた現場の教師は、研修も受けていなくて、現場では非常に混乱している状況である。 このような問題を解決するために、教師に対して研修を実施し、教師のインクルーシブ教育のスキルを高める必要がある。そして、多くの児童が近隣の小学校へ行くことができるようにする。
(3) 事業内容	(ア) <u>キーティチャー（※）の育成研修 毎年6月3年間（N連の予算で実施）</u> ※各省の教育局が小学校の校長・副校長・教育局の職員から選任 <u>ビントウアン省</u> 当会が結成したホーチミン市障害児教育専門家チームが、ビントウアン省の新たに選抜した30名のキーティチャーに対して、1回（1回2週間）、3年間で計3回、キーティチャーの育成研修を実施する。それにより、ビントウアン省の10地区に、各3名のインクルーシブ教育のキーティチャーを育成する。 <u>アンザン省</u> 当会が結成したホーチミン市障害児教育専門家チームが、アンザン省の新たに選抜した30名のキーティチャーに対して、年1回（1回2週間）、3年間で計3回、キーティチャーの育成研修を実施する。それにより、アンザン省の11地区に、各3名のインクルーシブ教育のキーティチャーを育成する。 * ホーチミン市障害児教育専門家チームには、先行事業で育成されたドンナイ省とラムドン省の60名のキーティチャーの内、数名の特に優秀なキーティチャーも参加する。ドンナイ省、ラムドン省のキーティチャーは、現場でインクルーシブ教育の様々な問題を抱えながら先行事業で専門家から数年間に渡り研修

を受けているので、現場に即した学習を提供できる実力を備えた。

* アジア・レインボーは、毎年、各省、全地区でモニタリング及びカウンセリングを実施する。モニタリングでは、地区のインクルーシブ教育研修の構築状況を把握する。また、毎年 600 名の障害ある児童、両親、教師に対して、小学校に通うようになってどのように児童に変化があったか。教師が研修に参加して、教師はどのように変化があったか等をヒアリングして、事業の成果や問題点を詳しく把握する。カウンセリングでは、現場の教師、障害ある児童と両親に、アジア・レインボーの専門家がカウンセリングを実施する。これにより、毎年、2 省合計すると、400 名対象のカウンセリングを実施する。

(イ) 各小学校の校内指導教師研修 毎年 11 月 3 年間 (N 連の予算で実施)

当会が結成したホーチミン市の障害児教育専門家チームが、ビントゥアン省、アンザン省で、それぞれ 200 名（各小学校 1 名～3 名）を対象にしたインクルーシブ教育研修を、各省 1 回 3 日間 年 3 回 9 日間、3 年間で計 9 回 27 日間 実施する。それによりビントゥアン省、アンザン省の各小学校に 1 名～3 名のインクルーシブ教育の校内指導教師を育成する。（各省 300 校の小学校、3 年間で 2 省合計 1,200 人の教師に 3 日間研修を実施する。）

* ホーチミン市障害児教育専門家チームには、先行事業で育成されたドンナイ省とラムドン省の 60 名のキーティチャーの内、数名の特に優秀なキーティチャーも参加する。

(ウ) 各地区の地区内研修 毎年 8 月～10 月 3 年間 (ビントゥアン省、アンザン省各地区教育室の予算で実施、アジア・レインボーの専門家による適時の支援)

ビントゥアン省、アンザン省の各地区では、各地区 3 名のキーティチャーが自身の所属する地区内の障害ある児童を受け持つすべての教師（およそ 50 名～100 名）に対して、必要時研修を実施する。（年平均 1 回～2 回ずつ。）

(エ) 各小学校の校内研修 毎年小学校の適時 3 年間 (ビントゥアン省、アンザン省各地区教育室の予算で実施、アジア・レインボーの専門家による適時の支援)

ビントゥアン省、アンザン省の各小学校では、専門家により育成された校内指導教師や、キーティチャーが、障害ある児童を受け持つすべての教師に対して、必要に応じて研修を実施する。

(オ)インクルーシブ教育のマニュアルの発行 事業1年目 N連及びアジア・レインボーの予算

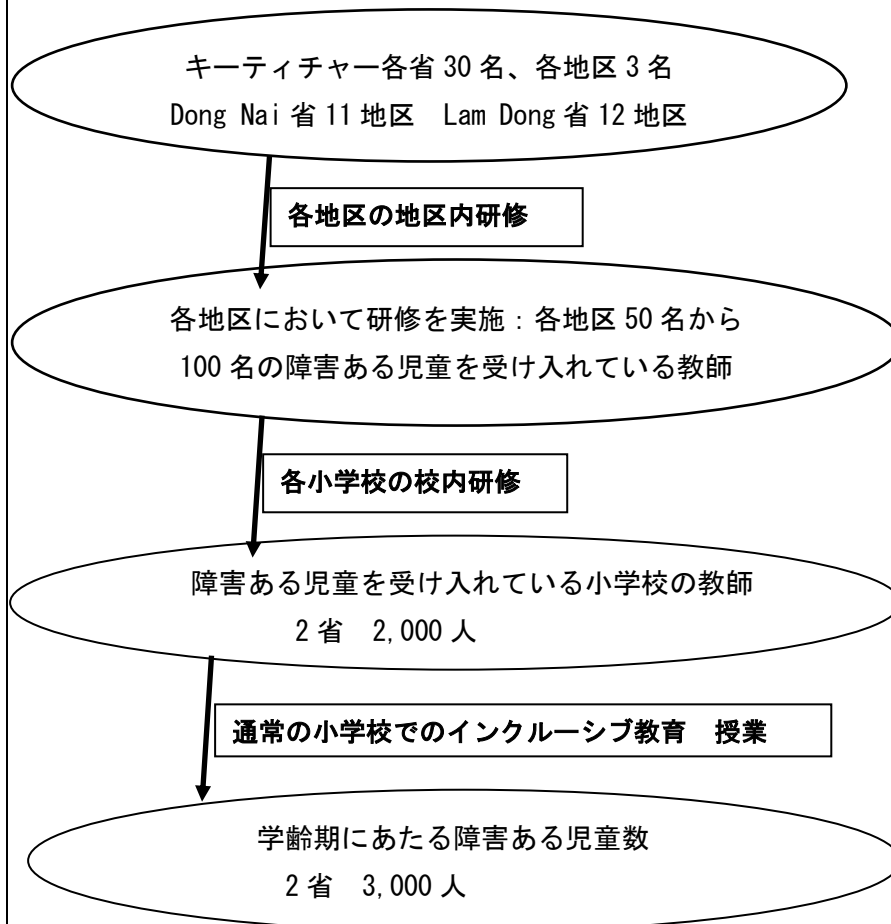
先行事業（ドンナイ省、ラムドン省対象）で作成、出版された小学校のクラス担任の教師の指針となるマニュアル本①「各障害別理解と対応」と②「わかるインクルーシブ教育」を、ビントゥアン省、アンザン省、省内の全インクルーシブ小学校に配布する。先行事業ではドンナイ省とラムドン省に各省1200冊ずつ（各省各本600冊ずつ）配布された。特に「わかるインクルーシブ教育」は、ホーチミン市のインター小学校のキムホア校長が、自身の15年間インクルーシブ教育に尽力した体験を基に執筆された本で、ドンナイ省とラムドン省から、現場の教師に不可欠な本であると高い評価を頂いている。

先行事業の成果例①

2014年～2017年 ドンナイ省、ラムドン省インクルーシブ教育研修システムの構築事業（外務省NGO連携資金無償協力）

<Dong Nai 省、Lam Dong 省における先行事業終了後の構築された地区内研修システム>

→ 主体：各省教育局



	先行事業の成果例② 2014 年～2017 年 ドンナイ省、ラムドン省インクルーシブ教育研修システムの構築事業 （外務省 NGO 連携資金無償協力） <事業実施後の各地区のインクルーシブ教育の進捗を図るグラフ> Dong Nai省インクルージョン教育研修システムの構築の達成度 2016年2月 <table><tr><td>1. 各小学校に最低1人の校内指導教師がいる</td><td rowspan="11"> Dong Nai 省 11 地区 </td></tr><tr><td>2. 人民委員会と教育室と各小学校が協力してインクルージョン教育が進められている</td></tr><tr><td>3. 地区内で必要時に研修が実施できている。</td></tr><tr><td>4. すべてのコミュニンに医療チームがいて障害を正しく診断できる</td></tr><tr><td>5. 地区研修と校内研修を実施して、インクルージョン教育をモニタリングしている</td></tr><tr><td>6. 各小学校で必要時に研修ができている。</td></tr><tr><td>7. 小学校内に、インクルージョン教育のリソースチームがいる。</td></tr><tr><td>8. 生徒の個人的な教育ニーズに合わせて個別授業を実施する</td></tr><tr><td>9. 教師と障害のある児童の両親が定期的に会合を開催している。</td></tr><tr><td>10. インクルージョンクラス担当の教師は研修を受けてIEPを作成している。</td></tr><tr><td>11. 健常児の両親と障がい児の両親が相互に理解、協力している。</td></tr></table>	1. 各小学校に最低1人の校内指導教師がいる	Dong Nai 省 11 地区 	2. 人民委員会と教育室と各小学校が協力してインクルージョン教育が進められている	3. 地区内で必要時に研修が実施できている。	4. すべてのコミュニンに医療チームがいて障害を正しく診断できる	5. 地区研修と校内研修を実施して、インクルージョン教育をモニタリングしている	6. 各小学校で必要時に研修ができている。	7. 小学校内に、インクルージョン教育のリソースチームがいる。	8. 生徒の個人的な教育ニーズに合わせて個別授業を実施する	9. 教師と障害のある児童の両親が定期的に会合を開催している。	10. インクルージョンクラス担当の教師は研修を受けてIEPを作成している。	11. 健常児の両親と障がい児の両親が相互に理解、協力している。
1. 各小学校に最低1人の校内指導教師がいる	Dong Nai 省 11 地区 												
2. 人民委員会と教育室と各小学校が協力してインクルージョン教育が進められている													
3. 地区内で必要時に研修が実施できている。													
4. すべてのコミュニンに医療チームがいて障害を正しく診断できる													
5. 地区研修と校内研修を実施して、インクルージョン教育をモニタリングしている													
6. 各小学校で必要時に研修ができている。													
7. 小学校内に、インクルージョン教育のリソースチームがいる。													
8. 生徒の個人的な教育ニーズに合わせて個別授業を実施する													
9. 教師と障害のある児童の両親が定期的に会合を開催している。													
10. インクルージョンクラス担当の教師は研修を受けてIEPを作成している。													
11. 健常児の両親と障がい児の両親が相互に理解、協力している。													
（４）持続発展性	事業終了後は、各省の教育局が主体となり、申請事業によって育成されたキーティチャーと各省教育局が協力して、「1. キーティチャーが地区内の教師に研修を実施する。」「2. 地区内研修を受けた教師が、今度は自身の小学校内で研修を実施する。」という研修システムを継続していく。 この事業で最も力を入れているのは、ビントゥアン省、アンザン省のキーティチャー 60 名の育成である。各省の各地区で数名のキーティチャーが協力し責任をもって、自身の所属する地区の障害ある児童を受け入れた教師に対して、必要時に研修を実施できる能力を育成すれば、持続的にその地区では研修が実施される。												
（５）期待される成果と成果を測る指標	<u>※退学率の減少</u>： 教師は研修を受けることによって障害ある児童に対する受入れのスキルが高められ、これにより在学中の障害ある児童の学習面、生活面が改善されるため退学率や休学率が下がる。 <u>※就学率の向上</u>： 現在、既にキーティチャーや教師は地区内の障害ある児童がいる家庭を訪問して、近隣の小学校への就学を勧める活動を実施している。現時点でまだ教師の障害ある児童に対する教授スキルが不十分であるため、学校へ通わせることができない状況の小学校もある。本事業を通して、教員のインクルーシブ教育のスキルが向上し、在学している障害ある児童の学習の向上につながり、障害ある児童を通学させようとする家庭が増えるため、障害ある児童の就学率も上がる。												

<達成指標> 先行事業の成果を参照：2014年～2017年 ドンナイ省、ラムドン省
インクルーシブ教育研修システムの構築事業 （外務省 NGO 連携資金無償協力）

<事業実施前、実施事業、事業実施後>

	事業前	事業実施	事業後
教師の指導方法の改善	1. 障害ある児童は大きい声を出して授業を邪魔したり、教室を出て行ってしまふ。 2. 障害ある児童は、他の児童に乱暴をする。乱暴をされる。 3. 障害ある児童に何度教えても上手にならないから非常にストレスである。	1. & 2. 障害ある児童の問題行動の理解と対応ができる。 3. 障害ある児童の個別ファイルが作成できる。 3. 個別教育計画書が作成できる。 3. 障害ある児童のそれぞれの特徴に合わせた学習支援ができる。	1. & 2. 児童が教室で大声を出すなどの、児童の問題行動に対する正しい対応ができる。 3. 個別ファイルや個別教育計画書に沿って児童の学習能力に合わせて教えるので、ストレスが軽減された。
教師の意識 校内及び保護者との関わり の改善	1. 教師は、障害ある児童にどのように教えていいのかわからない。 2. 教師はインクルーシブクラスを教えたくない。 3. 障害ある児童の両親は、児童の教育に関心心である。 4. 障害ある児童の両親は、児童の学習や将来に不安を抱えている。	1. 必要時に校内で研修が実施されている。 2. 各小学校にインクルーシブ教育の校内委員会が設置されている。 3. 教師と障害ある児童の親との連携ができています。 4. 専門家からコンサルテーションを受けた。特別支援教育コーディネーターからコンサルテーションを受ける事ができる。	1. & 2. 教師はインクルーシブクラスの意義と教え方が理解できる。 3. 障害ある児童の両親は、児童の教育に関心をもつ。 4. 児童の障害を受け入れ、児童の能力に合った学習の向上を喜べる。児童の能力にあった仕事を考える。
地区内で改善された点	1. 障害ある児童の両親は、両親が蒸発していたり、両親が仕事で忙しかったり、親戚や祖母に児童が育てられているケースが多い。また、両親は、文盲であったり、障害者であるケースが多い。	1. 各地区内で教育室が、保健室、人民委員会、婦人団体、福祉団体、赤十字など他の団体と協力して、インクルーシブ教育の地区内でのプロパガンダや必要な支援がなされている。	1. 地区内の障害ある児童の家庭に対して、地区の各種団体が協力して必要な支援をしている。

	障 害 あ る 児 童	学校に行っても学習がわからないから、学校を辞めてしまう。 学習がわからないから、大声を出したり、クラスを出て行く。また、友達に暴力を振るう。 いつも先生から叱られる。 友達もいない。 友達からいじめられる。 学校が大嫌い。	教師は、個別教育計画書に合わせて教えてくれるので、学習ができる。 教師は、いつも、同級生に私の事を理解して手伝うように話してくれる。 手をあげて発表すると、友達が拍手をしてくれる。 先生からもよく褒めてもらえる。	算数や、国語は少しできるようになった。 学校は楽しいから好きだ。たくさんの友達がいる。 友達と校庭でいつも遊んでいる。 足が不自由だけど、友達が手伝ってくれるので、大丈夫だ。 友達がいつもノートを見せてくれる。 学校が大好き。
	障 害 あ る 児 童 の 両 親	自分の子どもに障害がある事を近所の人に知られたくない。 誰にも相談できなくていつも子どもの事で不安だった。 子どもの障害が不安だ。 子どもはなににもできないのでいつも叱っていた。 子どもはいつも機嫌が悪かった。 子どもの医療費にお金がかかる。ただでさえ貧乏である。	地区の教育室の職員や人民委員会の人に来て、子どもを学校に行かせるように説明した。 いつでも校長先生や先生に相談できる。 子どものできる仕事の可能性を考える。 子どもを叱らないで褒めるように教えられた。 人と関わるようになった。 人民委員会から毎月奨学金が支給される。	心配だが、他の障害ある子どもも学校に行っているの、私の子どもも行かせた。 まだ不安はあるが、子どもは毎日楽しそうに学校に行く。 子どもにもできる仕事はあるので、安心した。 子どもは、家事ができるようになった。 トイレや生活習慣なども自分でできるようになった。 兄弟とも仲良くなり、近所の人とも話やすようになり、毎日楽しそうである。 子どもの医療費が、学習にかかる費用が払える。